京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
定價　本紙一枚金二錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
廣告料金　▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲特別廣告欄五號活字十七字詰一行金七十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
發行兼編輯人　高木久太郎
印刷人　松久靜一郎
發行所　京城西小門通　京城新報社　電話六六三番　振替貯金口座京城四五六番
仁川支局　仁川宮町三丁目　電話二一一番

人物の新陳代謝

寒言　蠶生

押すな、押すなで押して行く劇場前の改札口、本願寺の大本戸口に蟻群の如く並び居る群集の老若男女は互に押すな〜と叫びながら且つ押し且つ押されてゾロ〜と進み行くので、暫くすれば直後の様にケロリとして終ふのである、所が此押すな〜で押して行くのが社會の總てを新陳代謝せしむる動力であつて、此一脈の活氣が絶えず動いてゐなければ社會の事物は沈滯して了ふのである、社會の萬事が活動寫眞のやうに動いて行くのは此押すな〜で押して行からである、廟堂に立つ元老でも此押すな押すなには敵し得ないで、何時の間にか押し出されて冥土に旅立をする、すると直ぐ其後を繼ぐものが出來る、矢張り其後から進んで來るものから押すな押すな〜で押されてをる、逝く者は斯の如し晝夜を捨てずとは水の流れのみかは人間萬事此押すな〜で新陳代謝として行くので、社會の進歩なるものは無理から生ずるものである、我國の大元老伊藤公は先づ押すな〜に押出されて冥土に旅立ち玉ひ、其次は山縣井上太閤の諸元老であつて、今や旣に断座の縁に立つてをられる、桂侯等の後輩が其後から押すな〜で押し進んでをる、而して桂侯の後からね又有名無名有象無象の徒がヒタ押しに押してゐる、社會の事はなんと見做に類するではないか、然し此れすな〜が無ければ後進の者は何時迄も其地位を得ない、頑固親爺が何時迄も帳場に頑張つて居て、放蕩息子の巾着は何時でも空虚である、鬼の如き姑が何時迄も火鉢の端で睨んでゐては嫁女たるものれ露の隠し食ひも出來ないのである、世の中はをすな〜で、押されて行き、をして押されて押して行くなりである、日今の社會は此押すな〜の現象が頗る猛烈である、況んや日本人は物見高い人種であつて、面白半分にさへ押すな押すなを極め込むのである、京城在留の若い衆は此押すな〜の極意を解してをるであらう乎、世の中には尻から這入ると云ふ事がある、假令へば會の芝居小屋木戸口が整と設けてあるのに、押すな〜で正當に木戸口から這入らないで、密つと裏口の方に吊してある鐶を引外して這入らうとする、勝元が世話方かに見付られてドッコイ然らぬと帶際摑んで引戻されるヤアこれは御免ひましたと不体裁にもれ後掲つて這入る、之を稱して尻入をいふ、例と卑劣な行爲ではないか。

誰も此尻から這入る様な卑劣な事をして社會に立たうとは思ふまい、正々堂々れ押すな〜でをして行くのを好むであらう、是が社會の眞相であつて、尻入なんぞ卑劣な行爲をする者は何時も成功する道理はない、只無邪氣にをすな〜で進む者の方が成功の彼岸に達するのである。然るに此押すな組の行列に加はらないで、最少し隙になつから行かうなどと思つて居ると、スッカリ一番の尻に殘されて終ふ、社會の進歩にはなかなか遠慮が要らぬぞ、早くイの一番に驅付けて、をすな〜の極意で以て押して行く者が先づ成功者と云はれるのである。

當京城にも元老と呼ばれる先輩が澤山ある、それと同時に少壯有爲の人士にも富んでをる、所が押すな〜の眞理は守はれないもので此程の民會議員撰果に當つて、押し强い後輩連から先輩連が大分埒外に押し出された様であつたが、萬事如此、少壯者連が先輩に負けない意氣込を以て、不斷の修養を積み先輩が隠居しても此方で大丈夫やつて見せると云ふ心掛が肝要である、此心掛けだにあらば、京城は益々發展する世界的都市たらしむる事も容易である凡ての事が引込み主義や前に云つた尻入主義では成就せぬ、須らく正々堂々押すな〜で通らねばならぬ、そこで京城でも撰擧の時ばかりに止めず、年中押すな〜主義を發揮する團体が必要ではあるまいか、蓋し押すな〜の眞意はこれに限らぬ其範圍は極めて廣い、折角と若い方は大に奮勵し大に猛進し玉へ……左様なら。

長崎縣遠洋出漁團規程

長崎縣遠洋漁業團に於ては團人の共同利益及び統一を計る目的を以て入餘より成る規程を設け凡て團員の漁船には赤地に白文字の入りたる團員旗を揭揚せしむることゝせりと云ふ其重なる條項左の如し

遠洋出漁規程

第一條　出漁者は本邦人たるの体面を維持し愼重態度を取り專心其業務に精勵するは勿論左記事項を遵守すべし

一、朝鮮人に對し親睦を旨とすべきこと
二、出漁中相互患難相救の實を全ふすること
三、喧嘩口論の行爲あるべからざること
四、漁場の風紀を維持し賭博其他惡事に關係せざること
五、勤儉貯蓄を勵行すること

第二條　出漁者は漁業の種類、船數、乘込員數、漁場及出船豫定年月日を本團に届出づべし

殖民地通信力（上）

蟲

臺灣朝鮮樺太及び滿洲の通信力を比較對照を試むるに左の如し尤も臺灣朝鮮は土着人をも合せ數ね樺太は日本人のみを計上し滿洲は關東州は在來土着の淸國人及び附屬地並び亦居住淸國人の總數を計上し比例を取る（單位圓）

△郵便爲替（四十二年度）

	振出	拂渡
臺灣	二、〇〇五、四〇四	八、三〇五、三三六
朝鮮	三、六六六、四七二	一七、八〇五、一〇五
樺太	九三〇、八九七	六六九、五三
滿洲	六、九六八、一五三	三、一七一、四九

人口百に對する比例を見るに臺灣は振出に於て三百四十四圓、朝鮮二百三十七圓、樺太三千四百八十三圓、滿洲二千八百四十圓又拂渡しに於て臺灣二百五十九圓、朝鮮百七十九圓、樺太二千六百二十八圓、滿洲一千三百四圓

△郵便貯金（四十二年度）

	現在預入員	同上預金額
臺灣	九〇、八九三	一、九〇〇、七〇〇
朝鮮	一〇六、六四四	二、三三一、六六一
樺太	六、四〇〇	一〇三、四五
滿洲	五〇、一〇四	一、八九八、七七五

平均預金者一人の金額臺灣二十圓、朝鮮二十一圓、樺太二十五圓、滿洲三十七圓にして滿洲尤も多し

鼠疫と死亡者

奉天防疫本部の鼠疫患者發生數は連日の紙上に散見する處にして今日迄の同部調査に係る患者數は累計五千八十三人なるが同管內以外地の即ち鐵道沿線以外の村落に付ては通信機關の不備により確固たる情態を知る能はざるも其の流行頗る猖獗にして時に一村全滅の箇所も少からざるを以て北滿州內部に於ける死亡者

外事一束

▲英國　保守黨は自由黨提案通過を妨げん爲種々劃策盡瘁を試むも敢て不能。
▲米國　は墨國境動員の目的に付正式の說明をなし英國の提議に因ると辨す。
▲佛國　海相議會に於て佛海軍よりも獨國の方優勢なり對抗策必要なりと論ず。
▲滿洲　千金寨にて淸國警官邦人に暴行を加へ互に負傷者あり目下交涉中。
▲起因　淸國警官の亂暴は鼠疫豫防の嚴重なるを厭ひし也頑迷度す可らず。
▲淸國　政府は西藏國境警戒の爲四川省軍隊千八百名を同地に派遣せりと。
▲禁止　淸國政府は重要外交問題に關し新聞に記事を揭ぐる事を禁止せり。
▲希臘　にては英國海軍將校を教官に招聘せんとし英國政府は之れ同意す。
▲不整　淸國政府財政顧問に米人を用ゐざる爲米と懸案中の借款成立せず。

文苑

つきぬいくさ（上）　曉南

あほぐみ空に星冴へて
風冷やゝかに暮れそめり
闇の帳につゝまれて
靜しづかに夜は來ぬ。」
アレよ東にまた西に
名殘を送くる矢の叫び
やみにひらめくいなづまか
切りむすぶらん太刀影か。」
行手に倒る武士の
征衣の袖に露さむし
魂はいづこに迷ふらん
ふとにもいのるつまが家か。」
こゝにかしこにかさなりて
にぎる劍に變逆の・
思ひを別けむすべもなく
置きわたる敵みかた。」

新刊紹介

▲東京經濟雜誌（千五百八十五號）社說「臺灣六三法繼續の必要なし」「特種銀行に對する一般銀行者の反對」伊藤院彥吉氏の「對淸經濟施設」小林丑三郎博士の「工場法は社會政策法に非す」等本誌重要の記事此他例に依り經濟界の記事を以て充さる（東京市京橋區彌左衛門町經濟雜誌社一部十二錢）

▲日常百珍十錢叢書（第二編）僅かに十錢の價にて日常人々の心掛くべき事を最も平易に書きたる極めて有益なる珍本なり本編は「神經衰弱症の豫防」を收む（十錢叢書刊行會元賣捌所東京京橋區西紺屋町良明堂書店）



召使れ初

第二十六回　蟲法師

佐五右衛門は椽側に空しく立ちて、れ道の足音次第に遠く爲り優り行くを聞き送り、れ力は後に殘る衣服、調度、何くれと見るにつけて、涙は泥らく胸の底より湧き出づる如く物憂かりき

「深く思ひ詰めては居るが、年老つて紋に別れるは悲しいものぢやの」と佐五右衛門はつく〜云ひつゝ「斯様な時には酒に限る、然もその酒さへ飮まれぬとは、什麼もいふ情無いことでおらうの」

「平生は爲りませすとも、斯ういふ時には構ひござりませぬで、一つ召し喫らせては什うでござります、れ道もうれを氣に致したではござりませぬか」

「いや〜」と、佐五右衛門は頭を掉つて「此處で心の禁止を破るは、我が身で我が咽喉を突くも同様ぢや、第一れ道へ對して濟まぬ」

「然し、れ顔の色が殊の外れ惡いやうでござります」

「惡うもあらう」と佐五右衛門は吐息ついて

「什麼ぢやらう、胸に霞がかゝつたやうぢや」

「是にもない事、外にれ心默ひやうのた手件はござりませぬか」

「まづ讀書ぢやの、文でも讀んで歩ぬ心の悲しみを紛らせうの」

「左様に遊ばしませ、その中に童の御飯の御用意も爲ります」

夫婦が淋しげに語り合ふ時、のそりと踊りて佐五右衛門の前に手を支くは佐十郎なり、平生になく悄れたるさま平生になく涙氣もなくて、目の中に潮みも見ねき

「只今歸りました」

されど佐五右衛門は詞なかりき。れ力は聲を尖らせて

「此方天罰に驅かしうもなう。登日中よう顔を睹すわの」

「今日までの不埒不屆き幾重と申し上げやうもなく後悔の臍を噬み居るでござります」

「もうそれも聞き飽いた。さうして私等に油斷させて、ありもせぬ家の物持ち出し、有られもない惡遊びに耽らう心、そなたの改心、そなたの懺悔、身の顔通る毘はそれにも身に染みぬ、左様な事云ひ、れ父様のれ怒。を増すよりは、何も云やるな、もう〜何もいふてたもるな」

「れ叱りは覺悟の前、私には私の存じ寄りもござりまする」と佐十郎は四邊を見廻はし「妹居りませぬ、れ使ひにでも參りましたか喃」

「れ道は人ぢやわの、此方のやうに人の皮着た畜生ではござらぬわの」

「只今不在でござりまするか」

「れいの、家の爲め、れ父様の爲め私の爲め、うなたの爲め町家へ奉公に參つたわの」

「ね」と佐十郎は喫驚して「妹が奉公したでござりまするか」

「そなたも存じ、飯倉下の海老屋德兵衛、强て所望と申すに由つて、今それへ參つたわの」

「うりや、まだ遠くは行くまいと心得まする、妹に約束、日を限つて借り受けた櫛笄、これへ持參してござりまするが……」と佐十郎は半ば起ちかけ「御免しござりませ、後追ひかけ呼び返し參りまする」

「待ちや〜」とれ力は驚き「そなたれ紀念の品、それに持つてあるぢやの……」

「私一分廢たる處、れ道貞實の心に由つて、武士の面皮も立ち、信義を缺かす事終つた趣も述べたて、命にも換へぬ大切の品どもあるを、便々と借り置くは妹に對する道にてもあるまじく、今日貰受け、これへ持參してござりまするを、僅かの後れで海老屋へ奉公に參つたとある、如何しても殘念、この紀念の品さへあれば、奉公に出る要もあるまいと、妹にまで苦勞かくる、これも私不所存から、何とも申譯ござりませぬと、はら〜と涙の如し、れ力はきつと膝を進めぬ



京城新報

實業視察團歡迎

二百數十餘人より成りし盛んなる朝鮮實業視察團は昨朝入京せり、吾人は同團諸士が貴重なる時間を割き多大なる費金を投じ、親しく新領土の現狀を視察以て國家進運に資する所あらんとする勞を多謝し、併せて一行の安着を祝福すると共に、多大の望を諸士に囑するものあるを述べんと欲す。

吾人は十九世紀に於ける歷史家の泰斗と云はれしモムセン博士が嘗て羅馬の歷史を著述するに當り、其卷頭に記せし「劍を以て得たる領土は劍を以て喪はるべし、然るに鋤を以て得たる領土は何人も之を奪ふ能はず」の警句を服膺して忘れざる也、古へ羅馬帝國の雄大なる向ふ所風靡し、其北は獨逸、英吉利、西は西班牙、南は阿弗利加、東は今日の巴爾幹半島を越ねて遠く亞細亞に迄侵入せるものは一に武力の勝利なるを想はしむるも、モムセン博士は其の武力の勝利よりも、彼々たる一種族の拓殖力旺盛なるに基因するものなりと論斷せり、博士の論や、今日に至るも尙千古不磨の名言として永く後代に向ひて敎訓する所あるを失はざるなり。

今日の大英國の如き領土の廣大なる、其基礎を造りしもの武力に須ちしや多かるべし、而かも一度得たる所のものを支持するに當りては、自から別個の方法に出でざるべからず、別個の方法とは何ぞ、經濟的方面よりして領土の啓發に努むるもの即ち殖民策を完全に行ふを云ふ、然るに此理を解せざる西班牙の如き往昔コンキスカドーレスと稱し、所謂勝利者なる武人に依りて南米に幾多の領土を獲占したるも、遂に之を喪失するの已むを得ざるに至れり、若それ、英國にして武力を以て終始せんとせば、今日の大をなすことを得ざりしや明かなり、我國の朝鮮半島を領有せし經路を辿れば、遠く二大戰役に起因し、直接の行動にこそ及ばざりしも、原因に溯れば幾多の人命と、鉅大の鉅帑を犧牲に供せし故は敢て他國のそれと異ならず、故に宜しく英國の爲す所を味ひて領土擴張の局に當りし軍人の功を空しからしめざらしめむことに全力を傾注するは、是れ國民の雙肩に擔ひたる重大なる責任なりとす。

我政府が東洋拓殖會社を起し、多大の保護を彼に與へつゝあるも、要するに經濟的方面に於て領土を保全せんとするに外ならざるなり、然るに何事ぞ東拓會社は其大職を解せず、施設悉く吾人をして失望せしめ終に吾人は無爲なる彼會社よりも寧ろ有爲なる個人的精力の發揮に待たざるものあるを自覺するに至れり、於是乎、吾人は滿腔の誠意を捧げて今回の視察團を歡迎す、蓋し同團が從來の視察團と異なり實業の二字を冠せるに見て、効果の從つて甚だ大なるものあるを信ずるを以て也。

吾人の同團に對する希望を述べんか、由來朝鮮に於て實業の見るべきものあるは、滊車沿線よりも寧ろ以外の地殊に南鮮方面に最も多しとす、故に團員中の特志家にして暫く足を鮮土に止め、詳細なる觀察を遂げて、百聞は一見に如かずてふ眞理を會得せられん事是也、團員諸士幸に自重自愛し、他日の大成を期せよ。

東京電報（十五日）

▲本願寺へ恩賜品　天皇陛下には京都兩本願寺にて宗祖親鸞上人の六百年祭を施行する旨聞召され左記の御下賜品ありたり

一、御紋章入銀香爐（一個宛）

一、御香花料三百圓（兩本願寺）

一、御香花料百圓（佛光寺）

▲政友會政務調査　政友會の政務調査會は十四日午前十時開會審議の末左の通り決定したり

一、明治三十九年法律第三十一號中改正法律案（可決）

一、六三繼續問題（可決）

一、商法中改正法律案（委員會決定通り可決、即ち重役体刑削除）

一、軍人恩給法改正法律案（可決）但し總務の一人は二割五分を二割に減ずる意向あるが如し

一、東京市借地法案（高木益太郎氏提出否決）

▲緊急勅令不承諾　貴族院にては緊急勅令第三百二十四號（朝鮮制令權）に付て委員會に於て討議の末既に法律の成りたる上は不要なりとの意味にて不承諾に決定したりと

▲栗原亮一氏死去　栗原亮一氏は去る十三日逝去したり

▲不當支出否認　衆議院決算委員會にては陸海軍省、外務省、農商務省の不當支出三十餘件を委員會に於て否認せり

▲朝鮮銀行の監督權　朝鮮銀行法案は總督の監督權を縮少の意味にて修正せらるべき形勢なり

▲地方官交迭　地方事務官には左の通り交迭ありたり

新潟縣事務官　深町鍊太郎

任愛知縣事務官（三等）

愛知縣事務官　高橋要治郎

任熊本縣事務官（三等）

熊本縣事務官　石川　啓

任新潟縣事務官（三等）

神奈川縣事務官　石井　謙吾

任秋田縣事務官（四等）

佐賀縣事務官　長岡隆一郎

任神奈川縣事務官（七等）

任佐賀縣事務官（七等）

兵庫縣屬　下條　安磨

岡山　次夫

任福井縣事務官（八等）

雜報

▲敎科書調査會官制　本日官報勅令第十號を以て圖書敎科書調査委員會官制中改正の件裁可公布、同十一號を以て高等官俸給令改正の件裁可公布せられたり

●議會朝鮮問題

十四日衆議院特別委員會に於て明治四十三年勅令第三百二十四號承諾を求むる件承諾を與へざる事に決し（同勅令案の內容は別に法律案として兩院を通過せり）又た本會議に於て臨時賞金の繰入に關する法律案及び司法事務共助法案は何れも委員長報告通り可決確定したる旨同午後九時兒玉會計局長より山縣政務總監に公電達したり

會議所法定問題

在朝鮮內地人商業會議所が現在の定款組織を改めて法令組織の下に立たんと欲し聯合會毎に必ず之を決議し其都度當局官憲に稟申せるは世人の悉知せる處なり然るに嘗て何等の詮議ありしを聞かざるのみならず警務總監部の如きは該會議所を目して一私立團體に過ぎずとさへ解釋を下し居れり而して一方には日鮮聯合大會を當地に開催せんと計劃し之に參加する內地會議所は孰れも堂々たる著名のもののみなるに在朝鮮の夫れを顧みれば如上頗る薄弱の基礎の上に立てるを以て參加の効力自から弱く隨て肩幅狹きの感あるを免かれず故に此際是非とも之の稟申を採納せられたく先般來頻りに交涉を重ねつゝある由なるが今此事に關し工藤商工局長の意見を聞くに該稟申の次第は素より之を諒せざるにあらず併し果して其希望を容るべきや否やに就ては目下審議中に屬するを以て今玆に明言する能はずと又更に之を小松總務部長官事務取扱に聞くに其談に曰く元來商業會議所に於て法定組織を希望するは法律の保障を得んが爲めなるべし即ち法律の保障に依りて成立の基礎を固くし公共團體の資格を以て行動せんと欲するものなるべきが內地に在ても往年之に關する條例の改正ありて商業會議所は公課金を徵する能はずとせば法律に據るも定款に基くも何等徑庭なきに非ずや若夫れ聯合大會參加に就て不面目を憂ゆるが如きは餘りに小膽に過ぐ如何となれば其實質に於て經濟上の一機關として立ち實業上の問題を討議するに在らば彼此毫も輕重を要ふるの要なければなり隨て當局者側より之を見れば各會議所が如何に其必要を絕叫するも未だ以て爾かく認むる能はずと言へば折角の希望も或は成功せざるべしと信ぜらる

●新敎科書內容

昨冬來學務局に於て編纂中なりし朝鮮學徒即ち普通學校生徒の敎育の用に充つべき改正敎科書の內容を聞くに從來の敎科書と甚しき差異を見ざるも要は韓國とあるを日本朝鮮とするが如き一部分の訂正を施したるのみにして尙從來の日語讀本とありしを國語讀本とし國語讀本とありしを朝鮮語讀本と改め來る四月の新學期より一般に頒布すべく其他は多少の加除を施したる上其の儘當分使用すべしと云ふ

●舊貨買上成績

京城本金庫貨幣整理部に於て去る三十八年以來本年二月迄での期間を以て本金庫及釜山仁川平壤等の二十六支店をして舊貨買上げを勵行しつゝありたるが愈々二月末日を以て之れが買上げを一時中止したり今其の買上げ成績を聞くに舊白銅貨三億九千百十九萬○八十五枚にして代り金九百六十萬八千七百三圓二十四錢五厘赤銅貨一千七百八十二萬二千六百八十五枚にして代り金三万九千百十三圓四十二錢五厘葉錢二十一億五千○八十萬四千○二十枚代り金四百二十七萬三千四百十九圓○四錢八厘等にして總計買上金高一千三百九十二萬一千二百三十五圓七十一錢八厘なりと

▲大庭府尹曰く　太神宮遙拜所に就て

ナニ太神宮遙拜所の造營計畫……夫れは言ふまでもない洵に時宜に適ふた結構の事である、併し問題は現在のものを完全に改營するか又は他に適當の境域を撰定して新規に造營を計畫するかに在る、待てよ……行るなら大規模の下に經營しなければならないから意見を言ふのは更に研究した上にしようか處で此問題は總督府に於て既に何等かの計畫があるかも知れない、故に吾輩の意見を聞くより先づ其方を確むるが能からふ

▲和田常市氏曰く

此計畫は居留地多年の問題で殊に五六年以前より稍々具体的に研究されて居る處で今度愈々實行するなら是非大計畫を立て理想的の造營をしたいものである、而して現在の遙拜所は風光絕佳の倭城臺に在るが唯だ惜むらくは位置が高過ぎて參拜するのに不便極まる、故に電車でも人車でも往復し得る更に自然の佳境を求めたいものと思ふ。

●山縣總監の臨席

別項の如く山縣政務總監は桑原秘書官を随へ十五日午後一時司法部樓上に於て開會中なる司法官會議に列席し午後三時半歸邸したり

●京城民團豫算總額

來年度の民團豫算案は殆ど編成せられたるも猶少しく未了のものあるを以て細目を表はす能はざるも豫算總額は三十二萬圓弱なりといふ

●京城民團新事業

京城民團の四十四年度新事業の重なるものは學校の增築道路の改築なるが猶其外に新たに豫算案に計上せられたるものは大神宮社殿の新築、公園の改築、民團發達史の編纂等なりといふ

▲人さま〲▼（七）

加藤末郞君

駒場大學廿八年出身の農學士で生國は伊勢つ兒正直とやら申す三重縣じや、京城へ來るまでは京都專賣局出張所長で在つたが四十二年東亞煙草會社が半島に一大飛躍を計劃するに方り、其聘を受けて同社の理事京城製造所長となり爾來頭山下に紫煙を燻らして居る、煙草に就いては多年の經驗空しからず確かに斯道のオーソリチーだといふ評判だから度支部當局等は偶には其門を敲いて氣焰を伺ふが能い、若夫れ月光沈々たる夜『是を思へば先達て、死だがましであつたもの、あぢきなき世の憂目やとはつと一度に聲立てゝ』御自慢のサワリの喉の好い處を聽くも能からふ。

實業視察團入京

▲着京の狀況　豫記の如く鮮民、京日兩社主催の朝鮮實業視察團二百二十八名一行は十五日午前八時南大門驛着列車にて入京せり朝鮮貴族團、日鮮官公吏、民團議員、商業會議所評議員其他日鮮官民間の實業有志團數百名はプラットホームに整列之を迎へ烟花數十發を打揚げて其無事着京を祝し爆竹相圖に團員下車せしが何れも長途の疲勞なく元氣益々旺盛に見受けられたり斯くて日本人代表者古城民長、朝鮮代表者趙重應子は歡迎人一同の名刺を携へ團員總代に對し簡短なる挨拶を爲したる後兩氏の先導となり團員一同構外に出て此所に出迎ひ居りし朝鮮側坊長以下有志數千名は朝鮮音樂隊、西洋音樂隊などを先登として歡迎旗を翻しつゝ列をなして各指定旅館迄歡送したり而して韓國銀行前には居留民團寄贈の歡迎門を設けられし等從來の視察團には曾て見ざる盛況を呈せり

▲視察團の行動　視察團一行は午前十時三十分旅館を出で十二時四十分京城ホテルに於ける總督府の立食饗應に臨み午後二時及び同二十分の兩度瓦斯電氣會社仕立の花電車にて龍山に赴き軍司令部へ敬意を表し五時二十分歸宿の筈

▲團員の總監訪問　朝鮮實業視察團の波隆介、栗原武三郎、阿部鶴之輔、內田恒太郞、內藤游、牧野元次郎、大木良輔、森岡寅造、牛山大吉、安藤龍太郎、初田仲作、宮澤元藏の諸氏は十五日相前後して山縣政務總監を總督府に訪問したり

▲政務總監饗應　山縣政務總監は十五日正午京城ホテルに於て實業視察團一行に對し茶菓の饗應をなし小松外事部長總監代理として接待の任に當れり

●視察團寄贈金

今回入京したる實業視察團は我京城官民の誠意ある歡迎を多とし入京紀念として民團管理の敎育事業及び鮮人側の敎育事業に向かつて各金三千圓を寄贈することに決し團長仁禮子爵一行を代表して其手續を爲すべしと云ふ

●仁川祝宴會景況

既報十四日開會の仁川築港祝宴は會衆約七十名民長の挨拶後一同築港案の成立を祝し尙今後築港に對し仁川港民は土地買占など奸手段を弄するが如き行爲なきを申合せて散會せり

●法官及藥劑官醫院參觀

今回司法官會議に列席各司法官諸氏三十餘名倉富長官の東道にて秘苑を拜觀の途次總督府醫院を參觀し藤田院長は同院樓上に於て午餐を饗せし後親しく各所を案內し又十四日は材料廠長羽田一等藥劑正一行及藥學關係の諸氏の參觀を機とし藥劑正を正賓とし午餐を供し終て院內各所を案內し院長親敷說明の勞を採りしと尙近來知名の士が醫事衛生、關係あるなしに關はらず醫院の設備に着眼せらるゝは誠に喜ぶべきことにて吾々其局に當るものに於ても其設備を善く紹介し得るは誠に喜ばしきことなりと藤田院長は語れり

●關屋學務局長歸期

外國語學校、法學校、普通學校等の學事及改廢問題等の用務を帶び東上中なりし關屋學務局長は今明日中に東京出發歸任の途に就かるべしと

●岩佐理事の出張

東拓會社の金融部長岩佐理蔵氏の十五日出發平壤及鎭南浦方面へ出張したり

●東拓會社派出所

東拓會社に於ては今般開城へ派出所を新設し三日前より事務の開始を爲したり

●仁川の墓地調査

仁川第三民會墓地規則改正調査委員長加藤、淸水、樋口の三氏は樋口役助と共に十五日實地調査に着手せり

●司法官會議

十五日司法部に於ける司法官會議の第三日は前日の如く倉富長官以下渡邊高等法院長國分檢事長各控訴院及地方裁判長檢事長檢事正三十餘名午前九時より列席寺內總督の提出問題を附議したり午後一時より山縣政務總監臨席し會議の狀況を看取し午後三時政務總監の退席に次で四時散會したり

●大邱の日人所有地

大邱居留民團管內に於ける內地人の所有地は四十二年度末に於て僅々五十五萬餘坪位に過ぎざりしが漸時居留民の增加に從ひ所有地著しく激增し加ふるに近時地價の昂騰は益々內地人の買占めに奔走する者多く即ち四十三年度末に於て實に八十八萬餘坪を計上するに至れり今其の內譯を示せば左の如し

種別	坪數	口數
宅地	九〇、四五五	九〇九
水田	一七〇、二二二	三一九
田畑	四四七、二三三	七六六
原野	二〇、一四四	一八
山林	五六、九六五	一四
雜地	六四八	一
沼地	一、〇一八	四
官公有	八三、五二三	六
合計	八七〇、二四三	二、〇三〇

●慶北の鑛山と林業

慶尙北道には森林なるものは至つて少なく只東北部道界に當り在來の森林あるのみ而して奉化郡の東北部には金礦及砂金礦あり禮安安東の中間東に砂金礦あり其他永川高靈星州善山尙州咸昌の各郡附近に亘りて金礦及砂金の產出多く現在判明しをる所のみにて砂金所在地五ケ所金礦脈十四ケ所あり石炭礦は東海郡の東北に一ケ所長鬐、延日、二郡の海岸に數ケ所善山開寧二郡の附近にも多量の礦脈あり黑鉛礦は本道西北部聞慶咸昌各郡及び忠淸道の境界線に沿ふて數ケ所あり銅礦は高靈郡の北部星州郡の西北部に散在あるのみなり

●菊池謙讓氏の歸國

朝鮮通信社長菊池謙讓氏は家族引連れ近々內地に歸還する筈なりと

公人私人

△野木傳三氏（水原勸業模範場技師）浦尾旅館に投宿

△宮家正茂氏（開城參政課技術部長）原金旅館に投宿

△大津誠吉氏（明治鑛業株式會社技術長）巴城館に投宿

△淸水源（寒川區裁判所檢事）寒川歸任

△堀內秀太郞（德島縣內務部長）新義州

△村幸八（德島縣水產組合長）同上

△原田佐之治（同縣酒造試驗所理事）同

▲京城手形交換高▼

三月	金高	枚數
十五日	一二三、二一九、五六	三八四

▲治外法權▼

實業視察團がやつて來た、今迄になく團員の粒の揃つた實業視察團がやつて來た、記者は衷心から同團を歡迎する▲扨考へて見れば今日までに觀光團とか視察團とか名の附いた團体や見物者が內地から來たことは中々多數である、併し困つた事には之等多數の團体見物者は殆んど義理一遍の觀光であつた、從つて彼等の來たのは半島の開發とは沒交涉であつた▲前にも言つた如く今度の視察團は之迄のとは違つて大に粒が良のだ、此粒の良い視察團は其視察の結果として聽て何等かの効果を現はすであろう▲メキシコの大統領ヂヤスが死んだとの噂がある、モシ本當なら同共和國のサキは見えた▲一体メキシコ國が今日まで獨立を維持して來のは一のヂヤス一人の力であつた、而して之皆ヂヤス一人の不思議に因たものであつた▲ヂヤスの死は共和國の解體を意味する、ソコで黑幕が活動する、パンアメリカン主義の實行が一歩一歩を進める▲玆に注意すべきことは今後ヤンキー國人がメキシコの事に就いて多忙となることであるのだ▲彼等にして今後其米化力をメキシコに轉ずるに於ては支那に對する彼等の米化力が自然減殺さるゝ事であるのだ▲大阪朝日が主催となつて米人飛行大會をやつた、其結果は我宮殿下を始め五千萬衆を驚かした▲不甲斐ないのは我飛行研究者であるのだ、彼等の或者は大坂朝日の催で今度始めて飛行機を見た位だ、如何にして世界の飛行界に雄飛し得べけんやだ▲過日龍山の陸軍紀念園遊會に於て或者が云つた、曰く次の國際戰には必ず飛行機の應用を見んと、亦曰く歐米ドコの國では必ず飛行上の發明を秘密にしあらんと▲若しも或者の云つた如くんば我國だとつては寒心すべき譯だ、何どなれば無數の大和魂と無限の武士道とを以てしても一飛行機から放下する爆彈にはあたれぬ、玆に於てか大和魂と武士道との自慢を止めて飛行機の發明をせねばならぬ▲夫にしても大坂朝日は良い事をして與れたものだ、今度の飛行大會が國民の惰眠を覺したのは程度に於て恐らくはペルリの來航以上だ▲惡縣公債今以て五掛けで賣買される、總督府はゴ存ヒにや如何、水を高きに說かうとは無理だ▲近く民團の解体、次いで自治体を殺かすと、咄々怪事、移住民の將來は如何。

▲相場電報（十五日）

明治町西村支店着電

▲京坂同　六三、二〇〇　六二、八〇〇

▲電話同　六三、四〇〇　六二、九〇〇

▲大坂同　六〇、五〇〇　六〇、七〇〇

▲紡績同　六〇、〇〇〇　出來不申

▲電燈同　一〇八、四〇〇　一〇八、四〇〇

▲大坂同　一三三、六〇　一三三、二〇〇

▲株式同　一三三、一〇〇　一三三、〇〇〇

▲同直同　一三三、四〇〇　一三三、六〇〇

▲取引同

▲大阪期米

八錢▲六十六錢▲四月寄八十二錢▲止八錢▲止五十八錢

同上▲五月寄九十六錢▲止九十五錢

●十五日前場▲二四月出來不申▲五月

三月寄十五圓六十六錢　寄十一圓五十八錢▲最高六十五錢▲最

▲二川米正取引

▲南大門驛荷扱高　十四日の分

發送　九三噸　到着　二八九噸

乘車賃金　一、一八、五九

貨物賃金　一、三三、二九

▲龍山驛荷扱高　十四日の分

發送　二二噸　到着　五二四噸

貨物賃金　二六、六一

▲仁川港の出入船舶▼

▲長州丸　同　大坂より入港

▲秀吉丸　同　大坂へ向出港



朝の南大門驛

韓國京日兩社の主催に係る實業視察團の一行二百二十八名が着城せらるゝ當日である、他所ながら歡迎の微意を表すべく出で立つ、縣雲南山の顯に搖曳して彩霞宛然に佐保姫の被衣の如きぞ仰がるゝ

行くは〳〵南大門外を南へ〳〵、黄や紫や紅や青や紺青や純白や眞き絹に金糸もて坊名繡うたる大旗小旗を捧げ持ちたる鮮人の陸續として、續く時刻風けれは電車の煩ひもなく、續くは三百名が程の鮮人少年の一團、朱黄色の長旗一旒を先頭に、手に〳〵日章旗を振り閃めかしつゝ。

郵便局側に五彩の旗を春風に弄らせつゝ駢び立つあり、三巴商店、明治屋、麥酒會社の文字鮮かに讀まる、停車場前人車轅を列ねる五百にも餘る、騎馬の巡查憲兵縱横に馬乘り回して雜踏を制す朝鮮貴族の二三を見受ける、混雜を防ぐ爲めに荷物携へたる旅客の入場は許されず空しく横手の方に立ち盡すものあり、氣の毒やと見て驛に入る、斯る時斯る際必ず官人に依りて占領せらるべき一等待合室は森閑として人もあらず暖爐に倚りて手を翳す、と倏ち佩劍の擦るゝ響靴の響入り亂れて入り來る人あり卒爾ありてはと身を一隅に退く、主は誰ぞ、元の法部大臣高永喜氏の五名の巡查に押し取り卷かれて窮屈相なれ氣の毒と見て室外に出づ。

品よき老媼のチゲに何を負はせて構外に立てる前を過ぎれとせし予の袂を控へて「何誰樣のお成りで」と問ふ「イヤ、視察團の方樣が著くのです」と答へる何う聞き違へたか「視察團の宮樣がれ着になりますので有難ふ存じます」と禮に痛か入つて露うした眼に酌付けの樣な紙片を手にして血眼に人車の位置を周旋せる下村警部の雄姿が眼に入る、取締さんの取り捌へ離更鑑遅もないかもしれん。

禮裝したる一瀬驛長ハイカラの雛樣が佩す如な劍を下げて活動寫眞を見る如に目眩しく驅け回る。

朝鮮古樂が他の喧囂を厭して更らに喧囂を極める、プープーガンチャン、特別列車は着いた、ドン〳〵〳〵〳〵爆竹が、ガヤ〳〵〳〵〳〵人が行く、ブーカ〳〵ヅン〳〵軍隊が、凡百音を蒐めた中を國民、京日兩社員に引卒せられた視察團員悉く洋服にて流石に夫れ程の混雜を見ずして乘車を終つて定めの宿に導かれて去つたが、金澤旅館の先頭に樹てた視察團の銘旗を眺めて考へながら歸途に就く。

恐ろしき女の半生

▽娼妓濱次の懺悔談

此所迄語つて擡げた濃れの眼は得意に、濃き渠の顔には生氣が充ち滿ちて居る、勸められる盃を下にも置かず二三杯を呷つた渠の朱唇は更に輕く回轉初めた、危ない借金は支拂つて七百圓と云ふ女にしては大金の加かも今迄の夫れと違つて公然財貨を懐にして何うで大阪迄は一緒にとれども共に乘り込んだのは勝つて兜の緒を締める譬通りに倹約しての一二等室、幾度か往復した山陽線ながら今迄は背後から追つ蒐けられる樣な氣で暢伸とした旅もやなかつたんですから嚴島は拗置いて岡山の後樂園も名に聞いた丈けで降りては見なかつたが今度の旅は夫れと運び持つて居る財の無くなる間は何樣に榮耀を爲ようとも何樣に悠揚しようとも尻の來る氣遣はサラ〳〵ないのでムんすもの、ソリヤ眞實の姫樣旅行。宮島では紅葉谷の當川から案内さして島の七浦七江比須、妾の柄ぢやアありませんが千疊敷に大閤樣の昔しを偲び盡きぬ眺めを跡にして岡山では後樂園から偕樂園へ中の島の夜の景から京橋の羅咲場迄見物して須磨や明石は生れ故郷の近所だけに知つて居るから素通りの父母戀しとは思はぬでもありませんけれど年來の不檢束に逢はす顔もないので大阪へも降りず梅田の驛で夫れときの奴と別れて又候ふの一人旅、稼ぐときに稼げ澤山遊べる時には遊んで置けと京都へ降りて車夫任せ引き込まれたのは下珠數屋町通り烏丸東へ入南側の丹平と云ふ中旅籠屋、四日斗りは物見遊山、名古屋靜岡は汽車の窓から眺めた限りで東京日本橋區下槇町の山田と云ふ素人家の二階に落ち着いて懐を調べて見ると買物其他で四百圓餘と殘つて居る、榮華に馴れた自分の事ウカウカして居りや殘りの金も三四ヶ月で消ねて終うは見易い道理、一演劇と奮發して寄席や芝居や活動寫眞とホッツキ歩行いて探して試たが帶にや短かし襷にや長い注文通りのホウ助が見當らないがマア焦らずともの事を思ひ直して他の師走を餘所にして下宿の二階で用の無い身を炬燵に入れて斯う呆然として居ると宿の内儀が梯子段の下から『お茶を差れました』チト話しに降りて在らつしやいましな』と聲を掛ける、御心切を無にするでもあるまいと進まぬながら降りて見ると二三度見掛けた近所の娘や内儀さんが二三人浮世話しに花を咲かして居る、お茶を飲み〳〵好い程に相槌を打つて居ると其中の誰れやらが木挽町の厚生館に朝鮮から娼妓を抱へに來て居ると云ふ話をした方があつた、此れを聞とフッと妾の心は動いた、一遍仁川で味を占めて居ますからねホヽヽヽ。夫れが井門の樓主と云ふ旦那、貴郎でござんしたのよ。一目見ると此奴なら……と見當を附けて縁に聞きなさい……マア怒らずへば條件なんぞは何うでも宜い、何うで元利一切頂戴する氣なんでしたものね(つゞく)

●子持ち藝妓

榮丸と云へば御承知の仁川は榮亭の藝妓であるが蘇は二の町なれども美貌が物云ふ朝鮮の事とて界隈の評判と成つ仲にも本町通りの酒店の主人を初め垂涎三千丈の誤親類が少なからざるは此の枝に取ての身の幸福處で藝妓だからとて孕むに別に不思議はなけれ共此妓京城に勤めて居る内に龍山は鐵道官舍の或御役人と深い仲になり浮名を歌はれしが遂に懐妊の身となりぬれば此の所詮如何はせんと思案に暮居たる折しも天の助けか今の榮亭夫妻の親切な心盡しに引取らるゝ事となり昨年の夏頃目出度御產の紐を解き女子を分娩せしかば樓主夫妻の喜び一方ならず自分に子なきを幸に我子となして立派に養育せんと樂み居たるが親の因果が子に報ゆるの譬であつたか玉の樣な子も母の胎毒を引受て六〇六號の效能も無く去る二月の下旬不幸にも草の葉末に置く露の朝日も待たで消失せければ夫妻の落膽如何計り夫よりも榮丸は夫妻の醒しき心に感じ且夕御恩返しの出來る樣と稻荷樣へ願を懸け專ら娼賣に精出したることそ殊勝なり話替つて過る日仁川の水道が竣成して愈給水業者で諸方から來た入札者の數ある中で緊梁津の金貸で麻松太郎となん呼ぶ紳士に落札したので麻氏機運到來したりと大恭悅漸々水の商賣をする事に成たに就ては先づ前祝に藝妓の水揚をして粹な通水式を擧行仕樣と榮亭にど登樓し通水式の相談にど及ひければ女將は兩手を擴けて待ち居たる榮丸ドーゾ私に龍口を取らして下さいなと云ふ私は全く無垢の乙女でよと手鍊手管の有丈を盡しければ麻氏いよ〳〵手中の圖子となりこれでは給水業も成功するワイと獨で合點し大枚一百圓にて首尾よく通水式を擧行する事となり一夜夢圓かなりしとは流石稻荷樣の御利生か去迚子まで成したる古狸知らぬが佛の松太郎阿呆さ加減も程がある

●春季大運動會

京城市民總代と銘打つて左の如く申し越されたる人あり本社は之れに就き可成其の希望を充すべく詮議中なり

謹啓 仕候貴社日に御隆盛の段奉欣賀候 却説今や四顧春色彌々深く驪く朝の季節とも相成り從ふて萬物悉く蒼生し生存場裡是れより展開の機運に打ち向ひつゝ有之候處此の時に當り郊外に崩ゆる若草を踏み蒼空の下に浩然の英氣を養ひ以て生存場裡に立つて、よく以上の大飛躍を試みる可き素地を造るは大に必要の義と被存候就ては來る神武天皇祭(四月三日)頃可然場所を撰び貴社主催にて春季大運動會御開催下され間敷哉幸にして御主催の榮を得ば小生等に於ても大々的趣向相凝らし奮つて參加仕るべく候間何卒好機を逸せず是非共御擧行被下度悉亦鄙陳仕候也匆々不宜

●京都歌留多會選手假番付

十四日夜京都各歌留多會代表者長谷川町一丁目惣●事務所に會合し假番附を作成したり明日の紙上に發表すべし

●京城座の許可取消

本町六丁目の京城座は營業期限滿了したるを以て一昨十四日南部警察署より出張して試驗したるに建物朽廢して危險なるを以て十四日限り營業許可を取消されたり

●雜誌記者の公判

既報日韓實業雜誌京城支社主任記者小谷忠次郎及外交員石井勝次郎等に對する小谷は恐喝未遂石井は横領詐欺並に恐喝未遂事件は十五日京城地方裁判所刑事部法廷に於て塚原裁判長野田檢事の係りにて公判開廷せられ被告小谷忠次郎の辯護人として岡田大久保の兩辯護士出廷被告等は怡然として法廷に立つ塚原裁判長は事實の審問に移り被告は或る一部を認め一部は否認したり證據調終り檢事の論告ありて辯護人は交々起ちて何れも無罪を主張して閉廷

四ッ手網

◎一口噺 化物生

百姓『此月は度々雨が降るが何の兆だらう』 天文家『雲右衛門と雷右衛門が入京するからだ』

主人『仲頭が死んで困つた哩』 小僧『チヤ、ペストでしよう』 主人『時節柄其樣馬鹿なことを言ふものではありません』 小僧『チモ白鼠ですもの』

◎情歌 浮世亭魚人

粹な蛇の目に氣も相傘の二人寄り添ふはるの雨

たとへ片袖濡れよが儘よ首尾に嬉しい蛇の目傘

花も開けば心も開く蛇の目の二人づれ

意氣な姿が蛇の目で通る京は祇園の仲の町を

●墓地發掘者處刑

大分縣人高倉佐次郎(三四)兵庫縣人田中正一(二八)北海道生れ山谷辰三郎(三二)の三名が共謀して去る一月二十一日以降數回に京畿道開城郡中西里面烟霞里各方面山中に於て墓地を發掘したる事件は京城地方裁判所に於て高倉は懲役八ヶ月田中は五ヶ月山谷は三ヶ月に處せらる

●阿片吸飲者捕る

清國山東省生れ當時仁川支那町二丁目華昇堂方同居無職業呂氏(三六)は去る十三日自宅に於て自分所有の阿片吸飲器を使用し阿片を吸飲し居たる現行を折から巡回中の仁川署の阿比留巡査が認め吸飲器具一切を取押へ同人を本署へ引致し取調べたる上十五日檢事局へ送られたり

●仁川の徵兵適齡者

仁川府管内に於ける明治四十四年度の徵兵適齡者は百十八名なるが民團役所にては來る十八日壯丁者一同を同役所に召集し檢査に應ずる心得を諭す由なり

●鳥代を猫ばゝ

岡山縣人當時太平町百十九番戸人夫業有國政右衛門(三五)は二月七日京城黃金町一丁目鳥家より南大門通り三丁目三田房義方に赴き金十五圓を受取り來る可き事を賴まれ三田方より受取りたる儘横領費消したる事件は京城地方裁判所に於て懲役五箇月に處せらる

●仁川捕鼠買上

十四日百十七頭にして三圓五十一錢なり

今日の運勢

三月十六日(舊二月十六日) ●自乙 酉大安 破

△一白 不如意の事多し盜害遺失防ぐべし起業開店旅行轉住婚談中裁協商効無し△二黑 埒明かぬ日常務以外手控の事新事婚談合委囑効無し△三碧 快欣の日入丸吉紛紜解決中裁分離精算決濟に良好△四綠 通利の日又業務上利得便宜あり取引取組締約婚談良好△五黃 不振の日新事見合せの事紛爭盜害畏るべし旅行凶△六白 業務上利得援助ある日なり疎隔衝突紛爭注意の事△七赤 子孫の事煩累あり他は靜寧大凡進んで吉△八白 澁滯多し諸事手控への事盜失遺失防ぐべし旅行轉住凶△九紫 不如意の事多し新事婚談見合せの事農林業に吉(三一館)

◎三面放言

要投

◎雜書を見るに厠とは用を便する處なりとあり、如何にも意を得たる解釋なれどそは昔の事なり、繁華なる今の世にありては厠は亦一の休憩所なり、されば之れに潛む人をして安靜を保たしむる設備なかるべからず、而かも世間多くの厠に就て見るに内部に秘密を保つべき設備なきもの多し、飛行機よく飛び潛航艇よく潛るも遂に半開國の名は免れ難き乎、◎厠は又人を知るの具なり、大食穢纏的に驅け寄りて内部を窺ふ事をもなさず直に開扉するものは馬鹿の骨頂なり、開扉せられて狼狽するものも略ぼ同級なり、又開扉前に扉を叩き、開かせらるゝに先ちて之を防止するは共に世を渡りうる人なり、また開扉せんとする人あるも之を防止せず開扉せらるゝも不然として用を便し開扉せし人に一瞥をも與へず却つて其の人を畏縮せしむる者あり、これ蓋し世界に名を成すの人なり。

評曰 朝鮮人は即ち其の尤なるものか

▲神戸米 先限引 (前日後場) 三五、九〇 (當日前場) 三五、三〇

▲大阪株式 ▲電燈同 ▲東京株 新株同 一〇八、五〇 一〇八、四〇 一一三、〇〇 一一三、九〇

▲大阪期米 ●十四日前場 三四月止不明▲五月止十五圓九十錢▲後場三月寄十五圓六十

▲仁川米豆取引 ●十四日後場 三四月出來不申▲五月寄十一圓六十錢▲最高同上▲最低四十

▲京城兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客 十四日の分 乘車客 五〇七 下車客 七八六

▲龍山驛乘降客 十四日の分 乘車客 一六八 下車客 一一二六 乘車賃金 一二二五、八四 貨物賃金 一一三二、二九

▲仁川港の出入船舶▼

▲漢城丸 十五日大阪より入港 ▲秀吉丸 同 大阪より入港 ▲木浦丸 同 大阪より入港
